

経済教室

青山 瑠妙

早稲田大学教授

ポイント

- 。党大会で「一带一路」の重要性が一段と強調
- 。「富国強兵」路線が国民の大国意識を刺激
- 。日中関係の安定と関与政策が一層重要に

盛り込まれた。一带一路構想は習政権の旗艦プロジェクトであるが、具体的な対外政策が党規約に書き入れられるのは極めて異例である。



あおやま・るみ 慶応義塾大博士（法学）。専門は国際関係論、現代中国外交

一带一路構想は13年に提起された習政権肝いりの対外政策で、陸のシルクロード経済ベルト（二帯）と海のシルクロード（一路）の2つの構想が含まれている（図参照）。アジア、欧州、アフリカ、ア

結ぶが、そこに中国は自国を起点とする広大な経済圏を構築しようとしている。一带一路構想は中国が抱える諸問題を解決する万能薬として、経済、政治、軍事の各分野から多大な期待が寄せ

構造転換を促すとともに、中国内陸部の経済振興を図る効果が見込まれている。また関係諸国との間で物流、貿易、金融、政治、研究などの分野で協力し、国際社会における中国の影響力を拡大させる狙

台湾問題に強い危機意識

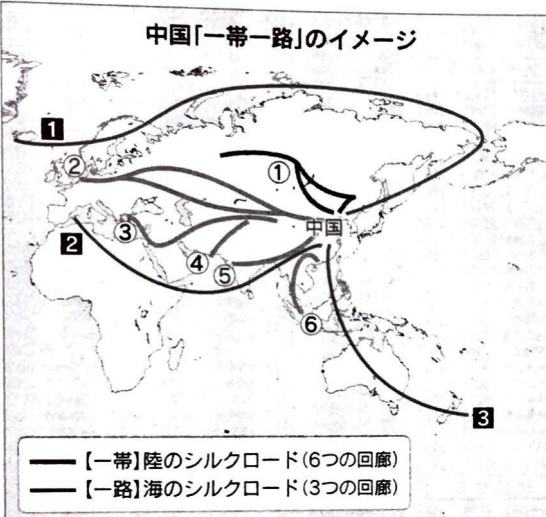
ラフ地域、太平洋島しょ国、南太平洋、北極までカバーする広大な地域を陸路と海路で

いもある。海のシルクロード構想では、中国海軍の拠点確保に寄与できる台湾の建設が重視されている。

共産党大会後の中国①

「一带一路」核に強国を志向

会では世間の予想以上に「一带一路」の重要性が強調された。延長で「一带一路」構想を引き続き推し進めることになろうと予想されていた。



20回以上言及された。また建国百周年に当たる今世紀半ばに「総合国力と国際的影響力において世界の先頭に立つ国家になる」「社会主義現代化強国」という長期目標が掲げられた。30年先の夢に向けて既存の国際秩序での地位を固めつつ、ポスト・アメリカナの世界で独自の勢力圏を作り出すとしている。一带一路構想は経済、軍事、文化など幅広い領域で米国と並び立つ強国を実現させるプロジェクトであり、失敗を許されな

習氏の演説では「強国」が20回以上言及された。また建国百周年に当たる今世紀半ばに「総合国力と国際的影響力において世界の先頭に立つ国家になる」「社会主義現代化強国」という長期目標が掲げられた。30年先の夢に向けて既存の国際秩序での地位を固めつつ、ポスト・アメリカナの世界で独自の勢力圏を作り出すとしている。一带一路構想は経済、軍事、文化など幅広い領域で米国と並び立つ強国を実現させるプロジェクトであり、失敗を許されな

習政権の下では、抗日戦争の勝利を導いた共産党の合法性をアピールする政治キャンペーンや、伝統文化への復古を促す政策が一層強化されることになる。また、経済成長により大衆の中で根付いた大国意識がさらに刺激され、ナショナリズムを増幅させる可能性も無視できない。

1840年のアヘン戦争から「百年の屈辱」の近代がスタートすると中国が言うが、第19回党大会が開かれた今日の中国は間違いなく、近代から現代に至る約200年の間で最も豊かで、最も国力の高いつ時期にあたる。

習氏の政治報告では「戦争ができる、戦争に勝てる」軍隊の育成が特に強調された。統合戦能力の強化、国防動員システムの構築などの国防・軍隊の改革は習政権の喫緊の課題となっている。こうした軍拡路線を背景に、南シナ海問題で妥協しない姿勢が改めて表明された。

習政権にとって共産党の再建と、末端に至るまでの党指導の徹底は何よりも重要である。今回の党大会では中国の政治制度の優位性と「社会主義文化」「革命文化」の重要性が強調された。裏を返せば、これは共産党政権の存続に対する危機意識の表れとも読み取れる。

習政権の下では、抗日戦争の勝利を導いた共産党の合法性をアピールする政治キャンペーンや、伝統文化への復古を促す政策が一層強化されることになる。また、経済成長により大衆の中で根付いた大国意識がさらに刺激され、ナショナリズムを増幅させる可能性も無視できない。

習氏の政治報告では「戦争ができる、戦争に勝てる」軍隊の育成が特に強調された。統合戦能力の強化、国防動員システムの構築などの国防・軍隊の改革は習政権の喫緊の課題となっている。こうした軍拡路線を背景に、南シナ海問題で妥協しない姿勢が改めて表明された。

習政権にとって共産党の再建と、末端に至るまでの党指導の徹底は何よりも重要である。今回の党大会では中国の政治制度の優位性と「社会主義文化」「革命文化」の重要性が強調された。裏を返せば、これは共産党政権の存続に対する危機意識の表れとも読み取れる。

習政権の下では、抗日戦争の勝利を導いた共産党の合法性をアピールする政治キャンペーンや、伝統文化への復古を促す政策が一層強化されることになる。また、経済成長により大衆の中で根付いた大国意識がさらに刺激され、ナショナリズムを増幅させる可能性も無視できない。

習氏の政治報告では「戦争ができる、戦争に勝てる」軍隊の育成が特に強調された。統合戦能力の強化、国防動員システムの構築などの国防・軍隊の改革は習政権の喫緊の課題となっている。こうした軍拡路線を背景に、南シナ海問題で妥協しない姿勢が改めて表明された。

習政権にとって共産党の再建と、末端に至るまでの党指導の徹底は何よりも重要である。今回の党大会では中国の政治制度の優位性と「社会主義文化」「革命文化」の重要性が強調された。裏を返せば、これは共産党政権の存続に対する危機意識の表れとも読み取れる。

習政権の下では、抗日戦争の勝利を導いた共産党の合法性をアピールする政治キャンペーンや、伝統文化への復古を促す政策が一層強化されることになる。また、経済成長により大衆の中で根付いた大国意識がさらに刺激され、ナショナリズムを増幅させる可能性も無視できない。

習氏の政治報告では「戦争ができる、戦争に勝てる」軍隊の育成が特に強調された。統合戦能力の強化、国防動員システムの構築などの国防・軍隊の改革は習政権の喫緊の課題となっている。こうした軍拡路線を背景に、南シナ海問題で妥協しない姿勢が改めて表明された。

習政権にとって共産党の再建と、末端に至るまでの党指導の徹底は何よりも重要である。今回の党大会では中国の政治制度の優位性と「社会主義文化」「革命文化」の重要性が強調された。裏を返せば、これは共産党政権の存続に対する危機意識の表れとも読み取れる。

習政権の下では、抗日戦争の勝利を導いた共産党の合法性をアピールする政治キャンペーンや、伝統文化への復古を促す政策が一層強化されることになる。また、経済成長により大衆の中で根付いた大国意識がさらに刺激され、ナショナリズムを増幅させる可能性も無視できない。